

(別紙) 平成26年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名：産業廃棄物炭化新資材開発事業

事業実施予定期間：平成25～26年度

担当課室名：農産園芸環境課

担当班名：環境保全班：022-211-2846

e-mail: noenkanhoz@pref.miyagi.jp

URL：－

1 事業の目的

廃棄物（有機質資材）の中には窒素，リン酸，加里など作物が必要とする養分が含まれているものの，ハンドリング（運搬，扱い難さ）の悪さや汚物感が農業資材としての利用が拡大しない一因となっている。

ハンドリングの改善と汚物感の除去のために炭化処理等が有効と考えられる。このため，新資材の試作に当たっては，リン酸や加里成分に着目し原料となる県内産業廃棄物の探索と炭化処理による農業資材等の試作，効果の評価等を行う。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

(1) 試作品の成分分析と効果の検討（ポット試験・試験場内ほ場試験）

炭化した資材（9製品）の成分について検証した結果，リン酸代替資材は鶏糞炭化資材，加里代替資材はおから炭化資材が有効であった。また，コーヒーかす炭化資材を2t/10a以上施用することで土壌三相分布の気相率が増加し土壌物理性の改善につながる事が検証された。

(2) 実証ほ場における試作資材の施用効果の確認試験（現地実証ほ2か所）

おから炭化資材の加里代替効果の実証では，対照区（慣行栽培）と比較して遜色ない収量が得られ，代替資材として有効と考えられた。コーヒーかす炭化資材による土壌物理性改善の実証は，単年度では施用量が少なく判然としなかった。試験場内ほ場試験では，2t/10a以上の施用で効果があったことから，数年連用することで効果が現れると考えられた。

3 当該年度の実施事業の成果

炭化処理による試作品（9製品）について，ポット試験，試験場内ほ場試験や現地ほ場での実証試験を行い炭化資材の有効性を確認した。その結果，3製品についてリン酸や加里の代替資材や土壌物理性改善資材として有効な結果が得られた。しかし，一般に普及するには，炭化製造コストを下げる必要があるといった課題が残った。

試験結果等をまとめた事業報告書を作成し，関係企業（9社），県機関（7か所）に配布した。

4 今後の展開

事業は平成26年度で完了。

5 廃棄物の削減・リサイクル，適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：製品数)

単位：品

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度	平成 年度
0	2	3	－	－

6 事業費の推移

単位：千円

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度	平成 年度
－	2,943	1,999	－	－